

新しい「サイン」の考え方

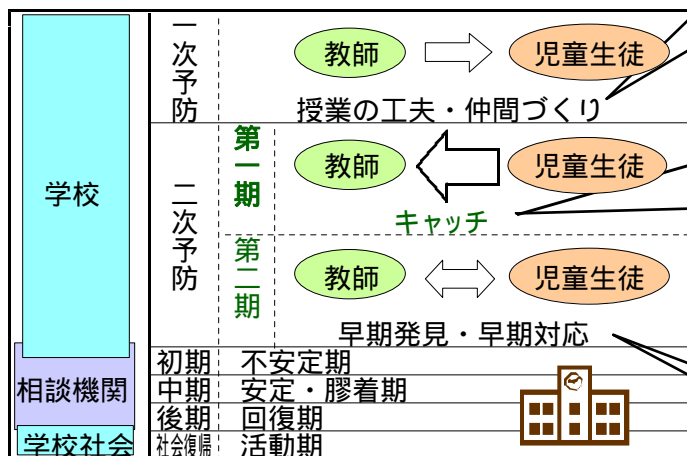
心のサインをよみとろう



今までの予防的研究は、「不登校を出さないための集団づくり・授業改善（一次予防）」や「早期発見・早期対応（二次予防の第二期）」（下表参照）が主なものでした。しかし、児童生徒の心のサインをよみとろうとする研究はほとんどなされていませんでした。そこで、心のサインのよみとり、つまり「言動・行動に表れる前の察知」＝「かすかなサインのキャッチ」ということを研究することが、より早期発見につながると考えました。

教師は、児童生徒のどの部分に目を向け、それが心理的に何を意味するのかを考えることが大切です。それには、児童生徒と接するとき、子どものサインをどうよみとることができるかということが大事になってくるのです。

不登校の過程



不登校を出さない集団づくり・授業改善

（例）「魅力ある授業の工夫」
「構成的グループ・エンカウンターでよりよい仲間づくりを」

ここがポイント

言動・行動に表れる前の
かすかなサインのキャッチ

（例）「友達と遊ばずに教師のそばに寄ってくる」「友達のだれとでも話を合わせる」

早期発見・早期対応

（例）「お腹が痛い」「学校がイヤだ」など表面に表れた段階

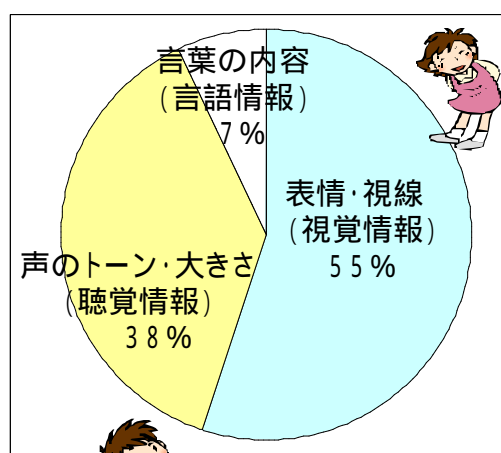
外見に表れた変化(視覚・聴覚情報)に 目を向けよう！

1 あなたの目や耳を使って！

言葉を使用しない(非言語的コミュニケーション)やりとりもコミュニケーションです。例えば、顔の表情や声の大きさ・視線・しぐさ・行動などによるものです。このグラフを見ると、気持ちの伝わり方は言葉以外で93%が伝わってしまうということが分かります。つまり、コミュニケーションで最も大切なのは、言葉を使わない非言語的コミュニケーションといえます。

視覚・聴覚を働かせ、児童生徒の言語以外の表現に気付きことが大切です。そして、その子どもの内面にあるメッセージに耳を傾けるように努めましょう。

非言語的なものはあくまでサインであって、それだけを手がかりにして全てをよみとれるということではありません。個々の生徒についての様々な情報、また、そのときそのときの状況等を勘案して、初めてそのサインの真意の扉にせまることができるのです。



Mehrabian.A (1971)

2 「あれっ？」と思う、その感覚が大事！

児童生徒のサインに「気付く」ということは、小さなことにまで目を向けることです。つまり「気持ちを向ける」ということです。気持ちが向くと「あれ？いつもと違うぞ」という思いが出てきます。教師自身のその感覚を大切にし、気にかけることです。「あれっ」という非言語的サインを感じ取るのが言語や行動に表れない内面を知る手がかりとなります。

児童生徒のそのサインを的確にキャッチするには、日ごろから触れ合う機会をつくるのが大切になります。

